

## 【vol.09】 3つの音だけで出来たコード

どうも、大沼です。

今回は、『トライアド』と言うコード(の概念)について学んでいきましょう。

これまでのテキストでは、2種類の3rd(M3rdかm3rd)と、P5thの位置を把握する練習をしてきましたね。

その2音にroot音を足すと、3種類の音を指板上で把握できていることになります。

この、「root」、「3rd(M、m)」、「P5th」の3つの音。

これら3つの音だけで構成されているコードがあります。

そのコードの名前を『トライアド(triad)』。  
日本語ではそのまま『3和音』と訳されています。

この『トライアド』なんですが、全てのコードの基本となる重要な概念なので、今回から数回に分けてやっていきたいと思います。

トライアドのコード・ヴォイシングと構造の概念は、ギターリフなどにほぼそのまま使われていたり、アドリブ手法の基礎から発展形まで、要するに、シンプルなものから高度なものまで、幅広く使うロジックなので、ここで確実にマスターしておきましょう。

世間一般では、理論的なことにはあまり馴染みがなさそうなイメージの、ジミヘンやヴァン・ヘイレンなどの曲にも、この、トライアドのプレイが当たり前に出てきます。

まあ、あの人達は破天荒なように見えて、  
音楽的な素養もキチンと持っている賢い人達なのですが・・・。

と、それくらい、ギター演奏の基本、というか音楽の基本です。

ジミヤヴァンヘイレンの他にも、世を見渡して見ると、良い題材が山ほど転がっています。

そういったものを参考にした実戦譜例も、今後のテキストでやっていくので楽しみにしててください。

では、本題に入っていきます。

まず先ほどもお話ししましたが、『トライアド』という言葉の意味は『3 和音』でしたね。

「トライ(tri)」(もしくは tri=トリ)は、元々がギリシャ数字の「3」の事です。

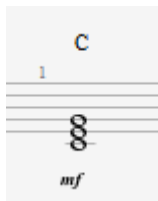
同じように、今までやっていた、ペントニックの「ペンタ」は、ギリシャ数字の「5」でした。

音楽で使う用語には、ギリシャ数字やローマ数字が良く出てきます。まあ、その辺は、そういうもんなんだ、と置いていてくださいね。

では、『トライアド』=『3 和音』と言うことで、その和音の元になっている3つの音はなんなのか？と言う事なんです、それが、最近やっていた、root、3rd、5thの3つの音になります。

この3つの音を積み重ねて鳴らすことで、和音(=コード)が出来上がると、ということです。

前にも少し話しましたが、コードの“積み重ねる”のイメージは、五線譜を見るとイメージしやすいですね。



C(メジャー)コードの場合、一番低いルート音 C(ド)の上に、M3rd の E(ミ)音と P5th の G(ソ)音が、積み重なっています。(ルート音の上に乗っかっているイメージ)

で、今回から、そのトライアドの指板上のフォームと構成を覚えていく、と。

実は基本のトライアドには4種類あるのですが、今はその中から2つ、メジャートライアドとマイナートライアドについて学んでいきます。

残りの二つは、しばらくは使わないと思うので、後回しにします。

さて、これからやっていくメジャートライアドとマイナートライアドですが、勘の良いあなたなら、この2つは何処が違うのか？  
もう気付いているかもしれませんね。

そうです。

メジャーとマイナーを分ける音、3rd が違います。

もう単純な話で、前回の譜例でやったように、rootを固定したら(Cに固定してやりましたね)、P5thはメジャーでもマイナーでも、どちらも同じ場所にありました。

違うのは3rdの位置だけです。

そのトライアドの3rdがM3rdなら、メジャートライアドですし、そのトライアドの3rdがm3rdならマイナートライアドです。

ということで、練習譜例にいきましょう。

今回も分かりやすくルートはC音に固定して練習します。

譜例 1、Cメジャートライアド基本形『root(C)、M3rd(E)、P5th(G)、(ド、ミ、ソ)』

上記全てのポジションで、低い音のほうから C、E、G の順番で音が積み重なっています。

構成は、見ての通り、root(C)、M3rd(E)、P5th(G)の3音ですね。

この音の構成がメジャートライアドの構成になります。  
 (※今回は root が C なので C メジャートライアド)

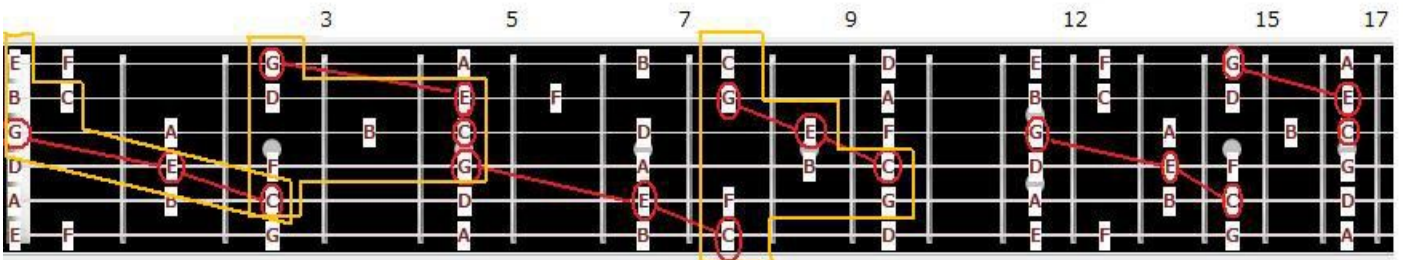
コードを「パーン」と鳴らしてから、CEG(ドミソ)のメジャートライアドの響きの感じを、しっかりと耳に残すつもりで聴いてください。

2小節目の5弦ルートと、4小節目の3弦ルートの形は  
 オクターブ違いの場所も弾いておきましょう。

指板上でのコードフォームはこの様になっています。

黄色の枠で囲った、普段良く弾くC(メジャー)コードとの関係性も見てください。

図1、Cメジャートライアド基本形『root(C)、M3rd(E)、P5th(G)、(ド、ミ、ソ)』



音の並びが、低い方からドミソになっているトライアドのフォーム(形)がこれである、  
 ということ覚えておいてください。

この各音の並び順が大事で、ただフォーム(形)だけで覚えていると、今後、このトライアドを実際に使う時に苦勞することになります。

なので、どの音がどの順番で並んでいるのかを、しっかりと把握しておきましょう。

では、次に同じようにマイナートライアドを弾いてみます。

**譜例 2、C マイナートライアド基本形『root(C)、m3rd(E ♭)、P5th(G)、(ド、ミ♭、ソ)』**

こちらも全てのポジションで、低い音のほうから C、E ♭、G の順番で積み重なっています。

構成は、root(C)、m3rd(E ♭)、P5th(G)の 3 音です。

この音の構成がマイナートライアドの構成になります。  
(※今回は root が C なので C マイナートライアド)

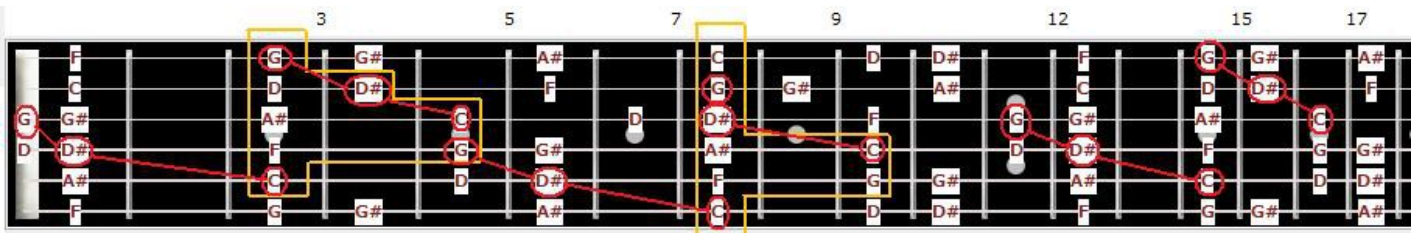
3rd が違うだけで、コードの響きがマイナーの感じ(暗い感じ)になる事に注目してください。

こちらもコードを鳴らしたら、耳に残すようによく聴きます。

指板図は以下です。

**図 2、C マイナートライアド基本形『root(C)、m3rd(E ♭)、P5th(G)、(ド、ミ♭、ソ)』**

(※指板図を作成したソフトの都合で、画像では m3rd が D♯になっていますが、正しくは E ♭になります)



こちら黄色の枠で囲った、代表的なCマイナーコードとの関係性を把握しておきます。

今回のメジャー、マイナートライアドの両譜例は、  
前回、前々回に行った、3rd、P5th 把握の譜例とも対応しています。

先にもお話しましたが、フォームを覚えるだけでなく、自分が押さえている場所の、  
どこが何の音になっているかを理解していることが重要です。

そこが、この先学んでいく様々な演奏ロジックの基本になりますので。

では、今回は以上になります。

今後は引き続きトライアドのフォームを学びながら、  
実際の曲でどのように使われているのかも見ていきましょう。

ありがとうございました。

大沼